



吉本みづる県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉県中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

ノリの不作に支援策求め!

「ちばの輝き」生産体制強化 養分の加工施設を整備へ

2月県議会一般質問に登壇



ノリ養殖への支援を求めて発言する吉本県議

富津市選出で、自民党議員会副会長を務めるなど県議会の中心的な存在としての評価を高める吉本充(よしもと・みづる)県議は、新年度予算案を主な議題とする2月定例会県議会で一般質問に登壇しました。吉本県議は、冒頭で日本と台湾の交流について語り、今も台湾で尊敬を集めている日本人技師、八田與一氏の功績を紹介しながら、教育と文化交流の大切さを訴えました。また、吉本議員は地元

2年連続のノリの不作に対し、県としてのノリ養殖漁業者への支援策を強く要望し、地域の隠れた観光資源にスポットを充てた観光振興策なども提言しました。吉本県議の主な質疑を特集しました。

富津市選出で、自民党議員会副会長を務めるなど県議会の中心的な存在としての評価を高める吉本充(よしもと・みづる)県議は、新年度予算案を主な議題とする2月定例会県議会で一般質問に登壇しました。吉本県議は、冒頭で日本と台湾の交流について語り、今も台湾で尊敬を集めている日本人技師、八田與一氏の功績を紹介しながら、教育と文化交流の大切さを訴えました。また、吉本議員は地元

吉本議員 ノリ養殖業

は、東京湾の主要な漁業の一つですが、特に私の地元の富津は、県内の約7割を占める主要な産地です。寒さが身に染みるこの季節に、生産者は家族で力を合わせて生産に取り組んでいます。例年であれば、年明けから生産量が増え、2月からはまさに最盛期を迎えるところですが、今漁期も昨年同様、秋の高水温によりノリの生育が遅れるとともに、魚による被害もみられ、今年の3割と2年続けての不作となり、生産者はとても不安を感じています。そこで、伺います。ノリ養殖業の振興に向け、県の支援策はどうか。

森田知事 ノリ養殖業は、秋の高水温等による漁場環境の変化に加え、価格低迷や生産経費の増加により、厳しい経営状況となっていますが、東京湾の重要な漁業として、引き続き振興していく必要があると考えています。そのため、県は高水

温耐性品種として開発した「ちばの輝き」の生産体制を強化するとともに、海上作業の効率化を図る高速浸漬処理船の導入や、富津地区において、ノリの陸上加工を家族労働から転換し、共同化する加工施設の整備に対し、支援しているところです。

さらに、2年連続の不作に対する原因究明と、対応可能な対策に早急に取り組むとともに、将来に向けて生産者とともに地区ごとの支援策を検討してまいります。

要望 大阪湾では、コンクリート製の構造物

千葉ノリのPR訴え

吉本議員 千葉ノリはせっかくの良い品質ながら、情勢の変化に対応できず、ノリの価格は低迷しています。そこで、伺います。ノリの販売対策について、県はどのように取り組んでいるのか。

森田知事 ノリの販売価格が低迷している中、生産者の所得を向上させ、ノリ養殖業を維持・発展させていくためには、常に一番目の軟らかさを持つ千葉ノリの良さを情報発信すること

で、「千葉海苔のファン」を増やし、消費拡大を図っていくことが重要だと考えています。

県では、農水産物フェア等のイベントによるPRや、小中学生を対象とした食育活動を実施してきたところで、さらに効果的な販売対

を海底に設置し、潮の流れを利用して海水の上下混合を促し、漁場環境を改善しようとする試みが行われていると聞いています。事業の効果については、現在調査しているようですが、東京湾でも参考になる事例だと思えますので、このような取り組みについて情報収集に努め、研究していただきたい。



東京湾のノリの収穫作業(千葉日報提供)

●県政と富津市に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

吉本 充 県議事務所
〒299-1606 富津市数馬421-5
TEL.0439-29-5502

富津市でも研究していただきたい。限りある漁業振興の基金を効果的に投入できるような、関係団体とよく協議し、連携することで、窮地にある東京湾漁業の振興に一層取り組んでいただきたいと思います。要望します。

スクールソーシャルワーカー 福祉の専門家が問題解決に有効

外国人児童生徒への日本語指導



文教常任委員会の視察先で語る吉本県議

「チーム学校」で支援

吉本議員 学校現場は今、小学校における暴力行為の増加や、不登校・いじめ問題など、生徒指導上の課題は多様化、複雑化しており、学校だけでは解決が困難な問題も多いと聞いています。

その背景には、「子どもの貧困」や「児童虐待」など、社会や経済の変化による、子どもたちの置かれている環境の問題も複雑に影響しています。

2月議会の吉本県議の質疑から

ます。

そこで、ソーシャルワーカーによる児童・生徒への支援の状況はどうか、伺います。

内藤教育長 平成27年度に、地区不登校等対策拠点校に配置された5人のスクールソーシャルワーカーが支援した児童・生徒数は210名であり、平成26年度に比べ94名増加しています。

主な支援内容としては、不登校に関することが92

県立高校への配置

吉本議員 県立高校へのスクールソーシャルワーカーの配置を進めるべきと思うがどうか。

内藤教育長 県立高校の問題を抱えた生徒への支援については、地区不登校等対策拠点校に配置しているスクールソーシャルワーカーを活用しているところです。平成29年度は4名増員するとともに、そのうちの2名は勤務日を増やすなど、これまで以上に県立高校への支援体制も

外国人教育相談員

吉本議員 近年、千葉県

における外国人の人口増加は著しく、平成24年度に約10万4千人だった人口が、その後3年間に約1万6

千人も増加し、増加率は約15%にもなります。

さまざまな国の子どもを迎え入れる学校現場では、子どもはもちろん、その保護者まで日本語を話し理解することができず、「家庭訪問や個人面談で言葉が通じない」などの問題が生じており、多くの学校現場で、その対応について相談が寄せられています。

このような問題を、学校や先生方にだけ任せておいて本当に良いのでしょうか。そこで、伺います。日本語指導を必要とする外国人の児童・生徒に対する県立学校での支援はどうか。

内藤教育長 県教委では、日本語指導を必要とする外国人児童・生徒が在籍する県立学校に対しては、外国人児童・生徒の母国語を理解する者を、外国人教育相談員として派遣し、充実させてまいります。

なお、県立高校のうち、「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行う地域連携アクティブスクール4校については、当該校専任のスクールソーシャルワーカーを配置し、きめ細かな支援を行っています。

要望 困っている児童生徒や保護者の支援のために、スクールソーシャルワーカーの県立高校への配置を要望します。

ボランティアの協力

吉本議員 本県で暮らす外国人が増えている中、ボランティアなどを活用して、外国人の児童・生徒が在籍する学校を支援する仕組みが必要だと思うがどうか、伺います。

内藤教育長 外国人の児童・生徒に対しては、各市

日本語指導や日本の生活への適応指導などの支援を行っています。

平成28年度は、これまでに26校から要請があり、すべての学校に対し、述べ43名を派遣しています。

要望 県立学校においても相談員を増員するなど、グローバル化に対応できる環境づくりを一層進めていただくよう要望します。

要望 「学校支援地域本部」の組織は、有効な手段の一つと考えますが、まだまだ県内各地への周知が図られていないと思います。その取り組みと合わせて、流山市の事例など、いろいろな機会を捉えて紹介し、各市町村に広げていくいただきたいと要望します。



吉本県議登壇の議場全景

県職員
対象

千葉県方式の人事評価制度を提言

意欲損なわない制度設計を！



自席から再質問と要望をする吉本県議

勤勉手当に反映

吉本議員 次に職員の人事評価について伺います。少

子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなど、社会経済情勢が大きく変化する中、高度化・多様化する県民ニーズに対応するため、県職員にあつても、個々の能力を高めることや、職員が意欲と働きがいをもつて仕事に取り組むことのできる仕組みを整えること

に勤勉手当に反映されていましたが、新たな制度では、全職員の勤勉手当や昇給に反映していくこととされています。

この勤勉手当への反映に際しては、優秀者に加算を行うため、全職員の支給額を引き下げる方式とされており、これは国などでも同様と聞いています。しかしながら、この方式では、標準の評価を受けた職員の支給額が引き下がることになるため、県民の命を守るために頑張っている県立病院や、県民の安全・安心のために昼夜を問わず精勤している第1線の警察官、そして

が、ますます重要になっていきます。そのような中、地方公務員法の改正により、人事評価の実施が義務化され、県ではこれまで実施してきた人事評価制度の見直しを行い、今年度から新たな制度をスタートさせたところと聞いています。人事評価の結果は、知事部局では、本庁の課長級以上の職員を対象

市内のバイパス整備で要望

月に地方公務員法が改正され、人事評価制度の導入等により、能力及び実績に基づく人事管理の徹底を図ることとされたところです。

この人事評価制度は、職員が発揮した能力と挙げた

優秀な職員に加算

吉本議員 評価結果の勤勉手当への反映に当たり、優秀者に加算するため、国のように全職員の支給額を引き下げるのではなく、県独自の千葉県方式を取り入れるべきと思うがどうか。

総務部長 評価結果を勤勉

勤勉手当に反映するに当たっては、条例で定められた総額の範囲内で、優秀と評価された職員に加算するため、対象者全員の手当額を巨引き下げる形になります。

今回の制度構築に当たっては、職員のモチベーションが維持できるのか、懸念される点でもあります。評価結果の勤勉手当への反映に当たっては、職員が意欲と働きがいをもつて仕事に取り組めるよう、千葉県独自の制度として何か工夫のできるところがあるのではないかと考えます。そこで、人事評価は、どのような目的で実施するのか、伺います。

再質問で

吉本議員 評価結果の勤勉手当への反映に当たっては、学校などでも優秀者の

業績を評価し、その結果を活用することを通じて、より高い能力を持った人材の育成と、組織全体の士気高揚や公務効率の向上を図り、住民サービスの向上につなげることを目的としています。

割合や標準者との支給額の差などを、知事部局と同じ内容としなければならないのか。

優先度高い2本のバイパス

道路問題

吉本議員 私の地元富津市は、国道や県道の中にも、幅員の狭い箇所や歩道の未整備箇所などがまだまだあり、必要性や緊急性などを検証した上で、バイパスや現道拡幅の整備を実施していただいているところです。

このうち、地元や利用者から意見が多く、優先度が高いと考えられる2つの県道バイパスについて伺います。富津市内の県道バイパスの進捗状況はどうか。

県土整備部長 富津市内では、県道大貫青堀線の山王地区において、市役所方面か

総務部長 評価結果の勤勉手当への反映については、各任命権者が、それぞれの実情を踏まえた上で行うこととされていますが、いずれにしても、地方公務員法の趣旨に反しない範囲において、運用されるべきものと認識しています。



市民及び各関係団体役員の関心集めた傍聴席

465号バイパス

要望 富津市條部からJR内房線を越え、下飯野へ至る延長950メートルのバイパスは、平成12年に富津市と県の共同で整備することを確認し、市の施工区間290メートルはすでに完成しています。

一方、県施工の区間の660メートルは、土地区画整理事業と合わせて整備

ら青堀駅や君津市街地へのアクセス性向上のため、1.2キロのバイパスを整備しています。このうち、青堀駅の東側0.4キロを優先して進めており、これまでにそのうちの0.2キロを供用し、現在残る区間の用地取得に取り組んでいるところです。また、県道君津大貫線の本郷地区において、線形の

悪い区間を解消するため、1.6キロのバイパス整備を行っており、これまでに概ね用地確保ができたことから、来年度から道路改良工事に着手する予定としています。引き続き、両バイパスとも地元のご理解とご協力を得ながら、残る用地の取得を進め、事業の推進に努めてまいります。

を進めることになっていましたが、その事業が中止になったことなどから、これまでなかなか進みません。先月26日に、富津市長と共に県当局へ整備の促進を要望させていただいたところですが、地域にとつて大変重要な道路であることから、本バイパス整備について、積極的に推進していただけるよう、要望します。

海外から教育旅行誘致を提唱!



議場に向かって語りかける吉本県議

訪日教育旅行

吉本議員 成田空港を擁する本県は、外国人観光客の誘致を目的に、森田知事自ら台湾などを訪問し、トップセールスを行っています。誘致する外国人は、個人や団体の観光客だけでなく、現地の高等学校などの教育旅行の誘致も積極的に行っています。

海外からの教育旅行が、大変有意義なのは、本県での学校交流やホームステイを通じて、若い時に互いの国の文化を肌で知ることが出来るからです。そこで、観光施策としての訪日教育旅行誘致の成果はどうか、伺います。

商工労働部長 海外から

海外修学旅行

流や宿泊を行った教育旅行件数は、平成24年度の1校から27年度は29校に、本年度は1月末時点ですでに33校と、年々増加しており、今後とも積極的に訪日教育旅行の誘致に取り組んでまいります。

吉本議員 県内からもっと積極的に海外修学旅行に行くべきと思うがどうか。

内藤教育長 海外修学旅行は、文化体験や学校交流などを通じて、生徒の異文化理解の促進や国際的視野の育成に寄与するものと考えています。県教育委員会では、学校交流の課題等の調査や海外からの教育現場の実情把握のため、平成27年度から県内の高等学校

校、特別支援学校の教職員を台湾などに派遣して、現地の教育関係者との意見交換や学校視察等を実施しているところです。

また、平成28年度は県立学校9校が海外修学旅行を実施しましたが、外国語学習への意欲の向上などの成果が見られたところです。今後も海外の学校との交流を促進し、グローバルな人材の育成に努めてまいります。

ちばの魅力アップの情報発信

吉本議員 森田知事は、就任直後の平成21年度から「観光地魅力アップ整備事業」として、トイレや駐車場などの整備費用の一部を助成する補助制度を設け、観光インフラの整備に努め、平成27年度までに166カ所のトイレ、41カ所の駐車場が整備されてきました。

一方、ハード面と比べて、プロモーションなどのソフト事業は、多額の事業費をかけずとも、工夫次第で効果が

昨年3月に同志の皆さんとともに、台湾を訪問致しました。目的は、東日本大震災以降続いている県産農水産物の輸入停止措置の解除を申し入れるためであり、外交部参事官へ要望させていただきました。

また、昨年より始まった本県高校生と台湾の生徒との交流事業をより拡大し、発展させるために、国立台中文華高級中学校を訪問し、台湾国際教育旅行連盟の会長を務める同校の校長先生などと意見交換を行いました。

この後、今も台湾の中学生向けの歴史教科書に掲載され、台湾農業の恩人と呼ばれ、台湾でも最も尊敬さ

冒頭のあいさつ

れる一人の日本人の話も聞くことができ、真の友好のためには、教育の力の重要さを改めて感じたところです。

その人の名は、八田與さんと言います。明治19年に石川県に生まれ、東京帝大工学部を卒業後、技師として日本統治下の台湾に渡り、現在でも

活用されているダムやかんがい施設を造り上げ、15万ヘクタールの田畑を干ばつから守り、台湾の人々を救ったと言われています。

中でも特筆すべきは、ダム完成後、現地の人々の民意により八田さんの銅像を建てることになりました。しかし、本人がど

して発信していくことが、今後の観光客誘致にとって重要だと考えます。

そこで、お伺いします。

ちばの魅力を市町村と連携し、情報発信すべきと思うがどうか。

商工労働部長 県内にはさまざまな観光資源があり、県では市町村や観光事業者と連携し、国内外に向けて積極的にPRしているところですが、最近、アニメ映画の一場面のような君津

埋もれた観光資源にスポットを!



鋸山で観光するマレーシアの大学生ら (千葉日報提供)

市の「濃溝の滝」や、海の中に電柱が並ぶ不思議な風景の木更津市「江川海岸」が、SNSなどのインターネット上での「口コミ」を通じて観光地化し、多くの観光客が訪れている現象もあります。

県内にはこうした埋もれた観光資源が数多く見込まれ、県としても、地域をよく知る市町村や事業者等と連携し、こうした観光資源の掘り起こしに積極的に取り組むとともに、SNS等の活用など、さまざまな手法を駆使し、情報発信に努めてまいります。